

大東文化歴史資料館だより

第3号 2007.11.30

大東医専草創期における学園の関わりと沿革

大東医学技術専門学校校長 志保井 義忠

医専草創期における大東文化学園との関わりについては、歴史的な見知からみると、言葉では言い尽くせないほど多くの学園関係者並びに大学関係各位のご指導とご支援の賜と存じます。改めてここに深甚なる感謝と敬意を表する次第であります。

医専の歴史を語るには東京都柔道整復師会の歴史的背景を無視することは出来ません。このことは、東京都柔道整復師会附属の柔道整復師養成所から発足していることから明らかであります。

昭和26年、東京都柔道整復師会は会の発展を期するため法人化する事を決議し、昭和26年5月社団法人申請をしました。事業計画の中には後継者の養成のため学校の設立が含まれており、昭和28年7月東京都柔道整復師会附属柔道整復師養成所の認可申請書を厚生大臣に提出し、昭和29年1月厚生大臣より設立認可されました。

昭和30年5月養成所開設に特段の努力をされた、増淵以理寧専任教員は当時豊島区池袋3-1385番地の大東文化大学内の校舎を一部借用し校舎としました。私の記憶では、「当時の大東文化大学は池袋駅西口から目白寄りに10分ほど歩く距離にあり、建物は木造二階建てのものが、数棟建っておりました。」現在の大東文化大学は総合大学として、板橋校舎、東松山校舎の二つの地域に近代建築の偉容を誇っております。当時通学した者（中央柔道整復養成所）として歴史の重みを肌で感じております。

この当時、東京都柔道整復師会附属柔道整復師養成所に所属する教員間で意見の違いを生じ分裂状態に陥りました。増淵氏は新たに、昭和31年4月中央柔道整復師養成所を創立され設置者となりましたが、養成所運営が軌道に乗ったかにみえた昭和35年1月増淵所長が急逝されました。この時代、養成所教育が個人立のままでは存続が出来ない状況となり、昭和35年4月には学校法人大東文化大学の評議員会は専門学校設置を承認し、名称を大東柔道整復専門学校として「社会の要請に応じ得る優秀な柔道整復師の養成を目的とした専門学校」が新たな出発をいたしました。中央柔道整復師養成所の生徒は大東柔道整復専門学校に移籍され、初代校長には当時の学園理事長であられた平島敏夫氏が就任をされております。

昭和35年6月法人名は学校法人大東文化学園と変更され同年7月には大東柔道整復専門学校設置及び認定、認可を厚生省、東京都、豊島区に申請しました。昭和36年4月大東医学技術専門学校に変更し、衛生検査科を開設致しました。

昭和36年9月学園並びに大学と共に板橋区志村西台町、大東文化大学校舎内に併設されました。昭和42年4月には、柔道整復が現代医療として果している役割が広く一般に理解されるようになり医学技術の分野として認められ校名変更が認可され、大東医学技術専門学校と現在の名称となりました。

これら多くの経緯と学園のご理解とご支援さらに諸先輩各位のお力を得て現在に至るまで柔道整復師の養成に努力しております。この間平成18年10月には柔道整復科が創立50周年記念式典・祝賀会を開催しました。これらの歴史をふまえて現在があることに鑑み、更なる飛躍のために真剣に柔道整復科の将来を見据えた理想的な教育環境構築の完成を目標といたし、今後これら発展課題の遂行に努力致します。

(参照文献)

「東京柔道整復専門学院創立30周年記念誌」P8～11、東京柔道整復専門学院発行、昭和57年10月24日

「柔道整復科創立35周年記念誌」P3、大東医学技術専門学校柔道整復科発行、平成3年2月

「創立50周年記念誌（柔道整復科）」P15～17、大東医学技術専門学校発行、平成18年



昭和三十一年
中央柔道整復師養成所時代（池袋）

大学の発展と共に伸びゆく幼稚園

大東文化大学附属青桐幼稚園園長

長谷部 文子

大東文化大学附属青桐幼稚園は戦後まもなく（昭和26年）豊島区池袋3丁目に文政幼稚園として設置されたのが始まりです。当時大学は文政大学と称しており、この名称「文政」を付しての名前でした。その後大学が池袋から板橋区西台（現高島平）へ移転した際一時休園いたしました。ここに高島平団地が建設され昭和47年板橋区からの要請を受け、また、大学は既に文政学部を文学部と経済学部へ改組しており、新たに外国語学部と文学部に教育学科（小学校、幼稚園教諭養成）を設置することになり、人文社会系総合大学に発展し、幼稚園の名称も「文政」から大学のシンボルマークである「青桐」として、装いも新たに再出発しました。



青桐幼稚園の教育の特色としては「知育・徳育・体育」バランスのとれた人格形成に主眼をおき、自分でよく考え、判断して行動できる子、人の痛みがわかる思いやりのある子、たくましく、気力に満ちた元気な子等の育成に取り組んでおります。知能を育てる漢字による教育は本園の特色です。昭和53年に就任した石井勲元青桐幼稚園々長（大東文化幼少教育研究所・所長）が古くから「三つ子の魂百までも」と言われ、幼児期に養われたあらゆる能力がその後の一生を決定するという大脳生理学の理論に基づき、漢字による独自の教育法を提唱しました。昭和48年アメリカのフィラデルフィアで開催された第6回人間能力開発大会で「幼児期の漢字学習は幼児の知能を高める働きがある」という発表をして、「この研究は人類の進歩に貢献するものである」との評価を受けて、金賞を受けました。そして、第三十七回菊池寛賞も受賞しました。が、漢字は教えるにも、覚えるのも大変難しいものと、かなり長い間、多くの人々に考えられてきました。そのため「幼児に漢字はとんでもない」と言う幼児教育界での固定観念に縛られている人にはなかなか理解されず、四面楚歌の状態が続きました。そのような状況下でも、青桐幼稚園では、開園当初（昭和47年）より漢字による教育を実践し、教育効果をあげております。私たちはこの実践を通して子供たちの能力のすばらしさや、一生のうちで最も漢字を吸収できる時期であること「百聞は一見に如かず」を実感させられました。本園の漢字を使つての教育方法はいまや全国的に知られ、幼稚園や保育園普及・啓蒙活動を展開しています。青桐では、現在の少子化においても、漢字教育を受けさせたいと多くの入園希望があり保護者の支持を得ています。これからもこの教育理念を受け継ぎ充実させ、幼児教育の重要性を確認しつつ、発展させる役割を果たしていかなければならないことを痛感いたしております。

第1回研究会報告

百年史編纂事前研究会の開催

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）では、本年より大東文化大学百年史編纂事業に向けた事前研究会を開始することになりました。第1回目となる研究会は、2007（平成19）年7月25日、京都大学文学部文書館より西山伸准教授をお迎えし、本資料館会議室に於いて実施いたしました。

西山先生は、1990年9月に発足をみた京都大学の百年史編集委員会に身を置いてから、1997年の刊行開始・2001年3月の刊行終了に至るまでのおよそ10年間、一貫して編集事業に携わった経験をお持ちになっておられます。その『京都大学百年史』は全7冊（総説編1・部局史編3・資料編3）で、総頁数が7956頁に及ぶものとなって完成しております。

研究会では、はじめに西山先生が、「大学沿革史編纂の歴史と課題 — 『京都大学百年史』の経験を踏まえて —」と題し、①大学沿革史編纂の歴史、②『京都大学百年史』について、③大学沿革史のこれから、④大学アーカイブスについて、など多岐にわたって説明されました。引きつづく質疑応答では、ご自身の体験を通して意見を述べられ、とくに沿革史編纂事業は10年単位で取り組む必要があること、編集大綱を早い時期に定めて構成・ボリューム・予算規模等を勘案しておくこと、さらに編集体制の確立と編集室の重要性とを強調されました。

今回の研究会は第1回目ということで、緊張した面持ちで一同西山先生のお話しに聞き入っておりましたが、西山先生より本資料館の運営委員会委員である寺崎昌男先生の著述を引用されて、大学沿革史編纂の意義は「最も本質的な自己点検・評価作業」であると告げられ、参加者一同の共有するところとなって終了いたしました。

（東洋研究所教授・歴史資料館運営委員会委員 兵頭 徹）



西山 伸 氏

学園関係者聞き取り調査

大東文化学院草創期と池田英雄氏の学問

—大東文化学院で培った学力を『史記』研究に傾注—

池田英雄氏は1908(明治41)年7月14日生まれで、今年“白寿”を迎えられた。数えて百歳である。昨(2006)年、大東文化歴史資料館へ『修学の道場回想録——七十年前の思い出の糸をたぐりて——(大東文化学院)と(觀無窮会東洋文化研究所)に学びて』と題する上・下2冊の自筆稿本の複写本を寄贈された。タイトルにあるように、氏は大東文化学院で本科(3年制)・高等科(3年制)の6ヶ年の課程を修めている。本科入学は1926(大正15)年4月、卒業は1929(昭和4)年3月、高等科入学は同年4月、卒業は1932(昭和7)年3月で、高等科の第4期生である。『回想録』から当時の学生たちの勉学にいそしむ姿を垣間見ることができる。

池田氏の入学当初は、私学・官学両派の教授陣の対立による学院紛争の真最中であった。初代総長の平沼騏一郎が枢密院副議長の要職に就くに当たって辞職され、後任の井上哲次郎東大教授が二代目総長に就任し、その後すぐに紛争が起こり、氏の入学した年に私学派の教授陣が一斉に退職した。その中に氏の御尊父池田四郎次郎も含まれていた。池田四郎次郎は近代日本の『史記』研究においては、瀧川亀太郎と並ぶパイオニア的存在であり、氏は御尊父の研究を継いで、親子二代で『史記』研究を完成させたのである。

本来、氏は文字学に興味を持たれ、高等科卒業後すぐに吉田増蔵教授が創設した書原撰述所(外務省の対支文化事業からの研究資金の供与により設立)の助手に採用され、文字学(説文解字)の研究に従事された。ところが翌年(1933〔昭和8〕年)1月に御尊父を交通事故で亡くされ、3月から母校の日本中学校(財団法人)で教鞭を執ることになった。実業界にいた長兄から「資金は自分が持つから、父の『史記』を完成させよ」との命を受け、教鞭を執りながら『史記』研究にも専念し、徴兵には丙種合格(体重不足・第3乙)のために戦地に行かずに済み、念願の研究を完成させることができた。

氏は若い頃から痩せていて、“お線香”というあだ名をつけられていたとのこと。お宅を訪ねた際、書齋に“千古”と書かれた扁額が掲げられていたので、意味をお尋ねしたら、“線香”即“千古”で、母校の校長猪狩又蔵が揮毫してくれたとのこと。瘦身(スマート)が健康の秘訣と思われるが、とにかく“『史記』研究を完成するまで斃れるわけにはいかない”ので、摂生に努めて規則正しい生活を送ってきたとのこと。

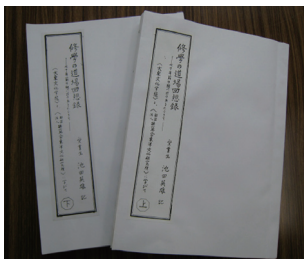
44歳から62歳まで教鞭を執られた都立豊多摩高校では、研究日を1日もらい、研究日と日曜日は全日『史記』研究に当て、平日も夕食後の7時から8時までを教材の準備に、8時から11時までを『史記』研究に当てたとのこと。

御尊父池田四郎次郎が大東文化学院で教鞭を執られ、さらにご子息英雄氏が学院で学び、その漢学の素養に磨きをかけて研究を成就されたことは、大東関係者にとっても誇らしく、また感謝しなければならないことであろう。氏の益々の長寿を願って已まない。

(中国学科准教授・歴史資料館運営委員会委員 吉田 篤志)



池田英雄氏・ご自宅にて奥様と



大東アーカイブスの動き

臨床検査科閉科にともなう資料受け入れが行われました

昨年度、2007(平成19)年3月をもって大東医学技術専門学校臨床検査科が閉科されました。閉科にあたり、歴史資料館では、臨床検査科で使用されていた各種顕微鏡や化学天秤等の器具・備品、教科書といった教材の一部を学園関係歴史資料として受け入れることとなりました。

また、第4回企画展(2007年10月1日～開催中)のテーマを「大東医学技術専門学校のあゆみ ～臨床検査科の45年～」とすることが昨年度末に決定されたことにより、企画展開催に向けて急遽受け入れ品の整理が行われ、現在までに受け入れ整理された資料は130点余りとなっています。

臨床検査科の歴史を振り返る今回の企画展は、大東文化歴史資料館展示室(板橋校舎2号館1階)において2008年3月まで開催しています。受け入れた資料公開を主たる目的として、臨床検査科閉科時に使用していた旧型の顕微鏡や化学天秤、教科書をはじめ、教育課程や実習風景、最後の卒業生たちが書いた寄せ書きまで、大小あわせて100点あまりの資料を展示しました。



大東アーカイブス第四回企画展

大東医学技術専門学校のあゆみ ～臨床検査科の45年～

展示期間：平成19年10月1日（月）～平成20年3月26日（水）
（開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00）

展示場所：板橋校舎2号館1階 大東文化歴史資料館展示室

大東医専臨床検査科は、平成19年3月をもって45年の歴史に幕を閉じました。

昭和36年4月に開科した臨床検査科は、医療技術が革新的に進展し、機械化や情報化への適応が求められるようになってきた時代とともにあゆみを重ねてきました。臨床検査技師に求められる科学的医療技術が日ごとに高度になっていく中において、大東医専臨床検査科における教育は常に充実した内容によって高度な実力と心とを兼ね備えた技師を医療界へ送り出してきました。

第4回企画展では、臨床検査科開設当初に使用していた実験器具や教科書の現物のほか、教育カリキュラムに関するパネル、学生たちの実習風景や思い出の教室等の写真類を展示し、これまでのあゆみをふり返ります。

なお、臨床検査科の教育と志は、平成17年4月に開設されたスポーツ・健康科学部健康科学科へ発展的に継承されています。

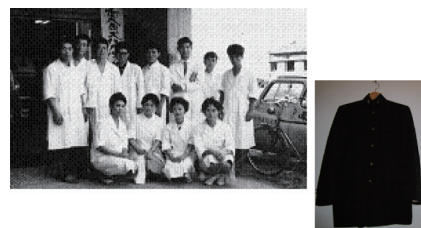


～大東文化学園に関する史資料を集めています～

- ・卒業アルバム ・写真や映像 ・各種機関誌や新聞 ・講義ノート
- ・記念品（卒入学時のものや部活動サークル関連のものなど）
- ・学生時代の制服制帽 ・学校行事や学生生活に関する資料 等

大東文化歴史資料館では、上記のものほか、各種学園関係資料を探しています。

本学を卒業された方、かつて教鞭をとっていらした先生方や退職された職員の方々、そのほか関係者の皆様のご協力を広くお願いいたします。ご提供いただけるものや情報がございましたら、大東文化歴史資料館へ是非ご連絡ください。



【大東アーカイブス活動記録】（2007年4月～2007年9月）

- | | |
|----------------------------------------|---------------------------------------------|
| 4. 2 第3回企画展「シンボル誕生 ～校歌・学生歌・校章～」開催 | 6. 23 「現代の大学」⑧ |
| 4. 11 今年度事業打ち合わせ・ホームページ作成会議 | 6. 25 桑原淳氏より資料寄贈（3点） |
| 4. 14 「現代の大学」（自校史教育）① | 6. 30 「現代の大学」⑨ |
| 5. 12 「現代の大学」②
合同部会会議／歴史資料館運営委員会会議 | 7. 3 池田英雄氏聞き取り調査 |
| 5. 19 「現代の大学」③ | 7. 7 「現代の大学」⑩ |
| 5. 24 全国大学史資料協議会東日本部会総会に参加
（於：日本大学） | 7. 10 全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会・研究会参加（於：東京都写真美術館） |
| 5. 26 「現代の大学」④ | 7. 14 「現代の大学」⑪ |
| 5. 31 ニューズレター vol.2 刊行 | 7. 25 合同部会会議 |
| 6. 2 「現代の大学」⑤ | 第1回百年史編纂事前研究会（講師：京都大学西山伸准教授） |
| 6. 8 田中稔氏より資料寄贈（5点） | 9. 12 合同部会会議 |
| 6. 9 「現代の大学」⑥ | 獨協大学天野貞祐記念館展示室見学 |
| 6. 12 池本治人氏聞き取り調査
池本氏より資料寄贈（13点） | 9. 13 全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会参加（於：明治大学） |
| 6. 16 「現代の大学」⑦ | 9. 18 大東医専臨床検査科資料受け入れ・搬入 |
| 6. 21 田中稔氏より資料寄贈（1点） | 9. 25 第3回企画展終了。次回入れ替え準備のため展示室閉室 |